



皆さんは「木喰さん」をご存じですか。木喰さんとは江戸時代の修行僧「木喰明満上人」が、日本中を行脚しながら彫った木彫りの仏像のこと、その数は千体以上にのぼります。何とも言えない親しみのある微笑を浮かべていることから微笑仏（びしょうぶつ）と呼ばれ、全国に多くのファンがいます。

木喰明満上人はここ猪名川町にも訪れ、すばらしい微笑みの仏像を残しました。今回は木喰さんを訪ね、その魅力を探りました。

五穀を断ち、火食をとらず

「木喰上人」の「木喰」とは、真言宗の戒律のひとつである「木喰戒」からきています。「木喰戒」とは、米・麦・大豆などの五穀や肉を断ち、煮炊きした食物（火食）をとらず、木の葉やそば粉などを常食とする修行です。これを成し遂げた僧を木喰上人といいますが、木喰仏の発見後は、一般的にその作者である木喰明満上人を指すようになりま

行脚に生きて木喰上人

上人は江戸時代後期、山梨県丸根の農家の次男として生まれ、14歳で江戸に出て、22歳の時仏門に入り45歳で木喰

木喰仏の発見

宗派に属さず流浪の一生を終えた上人の名と仏像は、長い間歴史に埋もれていました。木喰仏が世に知られるようになったのは、大正時代末、日本民芸運動の提唱者である柳宗悦氏に偶然見出されたことによりです。木喰仏の大胆な彫りと、一般の仏像と大きくかけ離れたおもしろい微笑に魅せられた柳氏は、木喰仏の収集に努



木喰上人により、生木に直接彫られた子安観音（東光寺）



みな人の心をまるく まん丸に
どこもかしこも まるくまん丸

木喰明満上人 作

丸い眉に三日月型の目、出っ張った頬骨に長いあごひげ。この木喰仏は木喰明満上人の自刻像です

癒しの微笑み「木喰さん」

もくじき

とらわれない・こだわらない・飾らない

東光寺 原田住職のお話



「癒」という精神を貫き、全国行脚で人との出会いを喜ぶような方だったと思います。木喰仏の微笑みは上人の心が表れたものなのかもしれませ

木喰さんに魅せられて

木喰仏は一体一体が個性豊かで、円熟した癒しの微笑みを持っていきます。エネルギーのほとばしりさえ感じます。また、両頬に木目がきれいにあり、木の持ち味を十分に活かして造像しているのがよく分かります。

仏像を造られた上人は、若くして仏門に入り厳しい修行に励みましたが、自ら僧籍や住まいを持たず「とらわれない・こだわらない・飾らない」



猪名川木喰会
でした。「見ごたえがありました」との声が聞かれました。また、「木喰まつり」では毎年、資料の展示を行い、町民に木喰の魅力を紹介しています。今年は上人が詠んだ和歌の展示と、清源寺の木喰仏の写真展示をする予定です。

木喰仏に魅了された人達が結成した「猪名川木喰会」は今年で発足5年目を迎えます。現在メンバー49人。毎月木喰の学習会や見学会を開催し、機関紙「すまいる」の発行もしています。4月29日は京都の清源寺で木喰仏の見学会が行われ、当日32人の参加者からは「微笑みいっぱい」の仏像

像で、その微笑みを感じている心が癒されます。ぜひ一度、木喰さんを自分の目で見てください。その魅力が伝わるはず。今後この会を通じて、若い世代の人達をはじめとした多くの人達に、木喰さんのすばらしさを伝える橋渡しができるようにしたいです。と熱心に話されました。

～猪名川町の木喰さん～

上人が猪名川町に立ち寄ったのは、文化4年(1807年)の3月、上人90歳の時。3カ月の滞在の間、3日で約1体というスピードで精力的に仏像を彫り、ここ猪名川町で千体目を完成し、大願を成就しました。上人は造像するところを人に見せず、夜中にノミをふるったと伝えられています。町内には東光寺に14体、阿古谷の毘沙門堂に7体、万善の天乳寺に3体、個人所有が2体、計26体が現存しており、それぞれの場所で大切に保管されています。

木喰仏の微笑みは上人が晩年を迎えてからさらに豊かになり、猪名川町の微笑仏は上人の宗教的な境地の高まった時の最も完成度の高い作品と評価されています。

平成11年、これらは兵庫県指定文化財に指定されました。町では毎年「木喰まつり」を開催して町民にこの貴重な文化財を紹介しています。

木喰まつりに参加しませんか

とき 6月27日(日)午前9時～午後4時
ところ 生涯学習センター
参加費 無料
内容
木喰仏見学バス(文化体育館駐車場集合～東光寺～天乳寺～毘沙門堂)
第1便(午前9時出発)
第2便(午前11時出発)
当日受付・いずれも先着50人

講演会
・午後1時30分～同3時
当日受付・先着200人

展示・特別展示
パネル展示や、大黒天と戎天を一材から彫出した貴重な木喰仏の特別展示

ビデオ上映
・午前9時～正午
問い合わせは、生涯学習課(767-2600)へ。

集記 編後

町内に住みながら木喰さんの知識はほとんどなく、今回初めて東光寺の木喰さんを拝見しました。その豊かで力強い表情にたちまち心を奪われ、時代を超えてもお愛され続けるわけを知りました。物は豊かでも心は貧しいと言われる現代だからこそ、なおさら木喰さんの持つすべてを包み込むような微笑みが胸に染み込むのかも知れません。次の時代にも、大切に残していかなければならない町の宝物ですね。【いながわ特派員】